

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

- ・「人権尊重の教育」を基盤とし、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る教育活動の実践を通して主体的・創造的に生きる、人間性豊かなたくましく生きる児童を育成する。

（2）具体目標（具体的な児童像など）

- ・思いやりのある子ども（思いやり星）
- ・よく考え進んで学ぶ子ども（学び星）
- ・健康でねばり強い子ども（健康星）
- ・働く喜びを知る子ども（働き星）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

目指す学校像「思いやり・健康・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」

ルールやマナーを守り思いやりのある心豊かな児童を育成するためには、自然体験、奉仕活動等の体験活動を計画的・体系的に推進し、規範意識やコミュニケーション能力の大切さを体得させるとともに、豊かな人間関係を育む必要がある。本校ならではの自然体験、勤労・奉仕活動、地域の人々との交流活動等を通し、思いやりがあり、生き生きと学ぶ児童を育成し、児童・教師・地域が共に学ぶ楽しい学校を目指す。

これらの教育活動の実現のためには、教育目標に掲げる本校の伝統と校風を引き継ぎつつ、全ての教職員が組織として行動し、個々の能力を最大限に発揮するとともに、キャリアステージに応じた資質を獲得することが不可欠である。このため、教師の授業力を磨き、学級力を高める指導の在り方をテーマに共同研究に取り組んでいく。また、これら「信頼される教職員を育て、学校の組織力を高める」ための取組は、保護者・地域と連携・協働した学校づくりの実現に向けた施策・事業の展開が不可欠である。学校の教育活動と保護者・地域の教育力を生かした教育システムの協働事業のため、「魅力ある学校づくり地域協議会」を核として共に学ぶ楽しい学校を目指し、「地域とともにある学校づくり」を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営の適正化

創立147年目を迎える本校の歴史と伝統を継承し、児童・地域の実情を踏まえ、学習指導要領に基づき、学校や児童の実態に即した創意ある教育課程を編成する。児童を主体とする活動の充実を図ると共に、地域の教育力の導入を推進し、活気あふれる学校づくりに努める。

（2）教職員の資質の向上

教育公務員として法令を遵守するとともに、人づくりの使命感に立ち、学校や保護者・地域の実態を踏まえた実践的な研修に励み、自身の資質向上を図り、和と協働を基盤に、教職員一人一人の特性やよさを生かし、児童・保護者と共に学校づくりに努める。

（3）学年・学級経営の充実

児童一人一人の興味・関心・意欲や個性等に配慮し、主体的・対話的で深い学びに向けた学級集団づくりと、活力に満ちた教育活動の展開のための学級力向上に努める。

（4）学習指導の充実

児童主体の分かる授業、楽しい授業の展開に向けた授業力の向上に取り組み、基礎・基本の確実な定着を図り、思考力・判断力・実践力等を重視した体験的・問題解決的な学習を推進すると共に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進する。

（5）豊かな心の育成

「特別の教科 道徳」を核とした指導と共に、様々な体験活動を通して、生命尊重・思いやり・感謝・勤労・奉仕等の豊かな心の醸成等を重視した教育を推進し、心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

（6）児童指導の充実

全教職員の認識を共有し、児童・保護者・教職員間の信頼関係を深め、共感的理解に基づいた人間関係を確立し、日常のふれあいを通して、基本的な生活習慣や集団行動の徹底を図るとともに、社会性の育成に努める。

（7）体力の向上と保健安全教育の充実

本校の課題である児童の体力向上を目指し、自ら進んで運動に親しみ、健やかな体を育む保健体育指導

の充実を図ると共に、健康・保健・安全指導の推進に努める。

○ **(8) 地域学校園・小中一貫教育の推進及び特色ある学校づくり**

地域の教育力を生かし、家庭・地域・関係諸機関との連携・協働を図りながら、充実した地域学校園・小中一貫教育の実践に努める。また、児童が主体となった勤労生産活動や奉仕的活動を積極的に取り入れた、特色ある学校づくりに努める。

(9) 地域に開かれた学校づくり

地域の教育力の活用及び発掘を推進すると共に、年間を通してのフリー参観や土曜授業等の実践により、学校と保護者地域等の信頼関係を深め、地域に開かれた学校づくりに努める。また、地域協議会・地域諸団体と連携・協働し、地域に根ざした学校づくりを目指す。

[横川地域学校園教育ビジョン]

「豊かな心の育成を目指す 横川地域学校園の小中一貫教育」

～自分、人、地域を大切にする子どもの育成を目指して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成に当たっては、公教育の立場から日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則並びに小学校学習指導要領の基準に基づいて編成する。
- (2) 学習指導要領の基本的なねらいである、基礎的な知識及び技能を習得させること、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むこと、主体的に学習に取り組む態度を養うことの実現に向け、それらにバランス良く取り組める教育課程を編成する。
- (3) 「栃木県教育振興基本計画2020」に示された基本理念である「とちぎから世界を見つめ 地域とつながり 未来に向かって ともに歩み続ける人間を育てます。」を目指し、「とちぎの子どもの基礎・基本」に基づいた教育課程を編成する。
- (4) 宇都宮市「第2次学校教育推進計画」(うつのみやいきいき学校プラン)を基に、その施策の柱である地域学校園構想・小中一貫教育を円滑に実施していくことを考慮して編成する。
- (5) 本校教育目標・本年度の経営方針や努力点・学校課題等を踏まえるとともに、地域社会の要望、保護者の願い、本校の実情や児童の実態・特性等を十分に考慮して編成する。
- (6) 前年度の成果や反省を生かすとともに、各教科、特別な教科「道徳」、総合的な学習の時間及び特別活動の4領域の関連を図り、調和と統一のある編成に努め、ゆとりある充実した教育課程を編成する。(教科横断的な視点より)

5 今年度の重点目標(短期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 思いやりの心の育成

「特別の教科道徳」を核とした心の教育の充実や、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動の推進を図る。

(2) 学力向上

主体的・対話的で深い学びを促す学習指導と評価の工夫・改善(授業力の向上)や、子どもたちの良好な人間関係(学級力)を高め、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る。

(3) リーダー性の育成

特別活動(学級活動及びクラブ・委員会・児童会等の活動)の活性化を図るとともに、教育的ニーズに応じた多様な学びの場の充実により、児童の社会性の育成に努める。

(4) 地域と共にある学校づくり

家庭・地域並びに地域学校園の教育力を生かした教育システムを積極的に活用し、活気あふれる学校づくりに努める。

【学校運営】

- ・教職員が児童と向き合える時間の確保に向け、業務の効率化に努めると共に、出退勤時刻の管理に係る取組により、労働時間の適正化を推進する。
- ・共同的な学びの実現に向けて、教職員自らが学び合い、授業力や学級経営力等の資質の向上に向けた取組の推進に努める。

- 主体性と独自性を生かした学校経営を推進すると共に、地域学校園に係る事業の効果的で円滑な運営に努める。(乗入授業、研究授業、相互授業観察等の交流、外国語教育に係る授業力向上を図る取組の充実、

等)

【学習指導】

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、以下のテーマで研究に取り組む。
「主体的に取り組み、自分の思いを豊かに表現する児童の育成」

【児童生徒指導】

- ・道徳的な判断力、実践力を育むとともに、体験活動や読書活動の充実により豊かな感性を育む。
- ・いじめ防止基本法に基づき、「特別の教科 道徳」や児童会が主体となった集会活動など様々な教育活動の場の設定により、児童の規範意識や正義感、思いやりの心の育成に努める。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・教科指導の充実や学校行事、児童会活動等の機会を通して、運動に親しもうとする態度・能力や、健康を大切に管理する態度の育成を図る。
- ・給食指導を中心に、より良い食習慣について児童自らが考え実践できるよう指導の充実を図ると共に、家庭・地域と連携して、生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質・能力の育成を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける

※「主な具体的な取組」の方向性には、**A拡充 B継続 C縮小・廃止**、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 話の聞き方、発表の仕方、ノートのとおり方など基本的な学習態度・技能を身に付ける指導の充実を図る。一人一人が意見を発表しやすい雰囲気づくりに努める。 ② 授業中の約束について、学年の発達段階や実態に応じた指導を行い、定着を図る。 ③ 授業において、児童が自分の思いを豊かに表現できる学習活動を重視する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.3% ・目標値を上回った。 ・学習用具の決まりが定着できた。 ・授業の前に着席し、チャイムを守る行動はできてきている。 ・話型を活用することで、話し方や発表の仕方が定着してきた。今後も引き続き、話の聞き方や発表の仕方を各クラスで掲示し、活用していく。 【次年度の方針】 ・話の聞き方や発表の仕方の指導は、引き続き行っていく。 ・横川中央小の授業中の約束を各教室に掲示することで、児童の意識を高める。
	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 縦割り班活動・奉仕活動を中心とした体験活動の充実により思いやりの心を育成する。 ② 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や人を思いやる心などを滋養する。 ③ 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。また、思ちゃんコーナー、思ちゃんカードを積極的に活用し、人権教育活動の活性化を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.1% ・目標値を上回った。 ・縦割り班活動を中心とした体験活動の充実にも努めた。 ・思ちゃんコーナーや思ちゃんカードを活用して、人権活動教育に努めた。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続して行い、思いやりの心の育成や人権活動教育の活性化を図る。

目 指 す 児 童 の 姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 生活目標（短期的な具体目標）を設定し、基本的な行動様式の指導を徹底し、習慣化を図る。 ・言葉遣いや廊下歩行について重点的に取り組む。生活当番による校内巡視の強化や児童会児童を中心とした校内や校庭での呼び掛け活動を継続して行い、規範意識の醸成を図る。 ・道徳や学級活動を中心として、きまりやマナーを守ることの大切さについて考える教育活動の場を設定することにより、児童の規範意識や正義感、思いやりの心の育成に努める。 ② <u>横川地域学校園で推進する時間・言葉づかいの指導の徹底を図る。</u>	【達成状況】 児童の肯定的回答率 82.2% ・目標値に達することができなかった。 ・新しい生活様式の指導を徹底し、習慣化を図った。 ・生活目標を設定し、規範意識の向上に努めた。 【次年度の方針】 ・校内放送等で呼び掛け、決まりを遵守できるようにする。 ・児童会を中心とした、校内や校庭での呼び掛け活動をこれまで以上に活性化し、規範意識の醸成を図る。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① <u>家庭や地域団体と連携しながらあいさつ運動を継続し、あいさつの日常化を図る。</u>学級や学年集会等であいさつの大切さを理解させたり、よくできている児童を称賛したりするなど、礼儀やあいさつに対する意識の高揚を図る。 ・児童会主体のあいさつ運動 ・教職員によるあいさつ運動 ・地域協力者によるあいさつ運動 ② <u>横川地域学校園による「あいさつ運動」を実施する。</u>	【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.2% ・目標値を上回った。 ・地域学校園小中あいさつ運動強化週間では、代表委員会を中心にあいさつ運動をするなど、可能な範囲で実施し、挨拶の大切さについて理解できるようにした。 【次年度の方針】 ・取組は継続して行い、礼儀や挨拶に対する意識の高揚を図る。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学期ごとに学習や生活のめあてを立て、振り返りの時間を設けながら、あきらめずに取り組めるよう認めて褒めて励ます指導に努める。 ② 学校行事や児童会活動、各種検定等での目標を持たせたり、役割を最後まで果たせたりできるように指導する。 ③ 四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、互いに認め合う場を数多く設け、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.4% ・目標値を若干下回った。学校行事が少なかったことも要因であると考える。 ・縄跳び検定や給食がんばりカードなど、可能な範囲で認めて褒めて励ます指導を実施した。 【次年度の方針】 ・学期ごとのめあてを「学習」「運動」「生活」の観点ごとに立てさせ、随時振り返りの時間を設けるなどし、あきらめずに取り組めるよう認めて褒めて励ます指導に努める。 ・学校行事や児童会活動、各種検定等で実施する意義を理解させることで、目標を持たせ、役割を最後まで果たせることができるように指導する。 ・四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを

目 指 す 児 童 の 姿	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて生活し、自ら健康を管理できるように、学級活動、保健体育と関連し、休み時間の過ごし方・廊下の歩行や、手洗い・うがいの励行などの保健安全指導に努める。特に、感染症を予防するために、教室等の換気やできるだけ接触を避けるなどの生活の仕方について日常の指導を行う。 ② 学校給食と各教科等の関連を図り、栄養バランスのとれた食事やマナーの大切さ、望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し、自らの命を守る行動力を育成するために、日常の安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。 ④	通し、互いに認め合う場を数多く設けることで、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。
	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 宮・未来キャリア教育県間指導計画に基づき、全教育活動を通して、児童が自らのよさを自覚して夢や目標に向けて取り組もうとする意欲や、勤労の尊さや生産の喜びを体得させる活動を意図的・計画的に実施する。 ② <u>地域と協力して、ボランティア活動や地域の行事に参加する機会を充実させる。</u> ③ 各教科や学級活動と関連させながら、宮キャリア・パスポートを活用し、児童が将来の夢や希望を描いたり、目標の実現に向けて努力したりする意欲や態度を育成する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.5% ・目標値を上回った。 ・全教職員で日常の指導を行い、更に児童会の各委員の児童が呼び掛ける等、多方面から取り組むことにより、達成することができた。 ・給食時の栄養教諭の放送により、食に関する意識を高められた。 【次年度の方針】 ・今年度、成果が認められた取組を次年度も継続して行い、健康や安全に気を付ける児童の育成を図る。
		④	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.4% ・目標値を若干下回った。新型コロナウイルス感染症予防の影響で学校行事や学習活動の一部に、例年とは異なる様々な制限があったためと考えられる。 ・各学年でキャリア・パスポートを活用し、自分を見つめ、将来への夢や目標について考えることができた。 【次年度の方針】 ・コロナ禍であっても、児童が自らのよさを自覚して夢や目標に向けて取り組もうとする意欲や、勤労の尊さや生産の喜びを体得させる活動を工夫して実施する。 ・地域と協力して、ボランティア活動や地域の行事に参加する機会を充実させる。 ・各教科や学級活動と関連させながら宮キャリア・パスポートを活用し、児童が将来の夢や希望を描いたり、目標の実現に向けて努力したりする場面を設け、自己のよりよい成長を実感できるようにする。

目 指 す 児 童 の 姿	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 外国語活動や外国語の授業を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的に英語でのコミュニケーションを図ろうとする活動を展開する。 ② 授業以外にも、ALTと英語でのやり取りをする機会を設け、児童が英語にふれる機会を多くする。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.4% ・目標値を若干上回った。 ・外国語活動や外国語の授業では、自分の考えを話す言語活動を行うことができた。 ・授業以外ではALTとコミュニケーション活動を行う機会が少なかった。 ・授業開始前にALTを迎えに行く挨拶をするときや、校内でALTとすれ違うときには英語で挨拶をするなど、英語でのやりとりをする場面が見られた。 ・階段や特別教室の入り口などに英語の表示を貼ることで、児童が英語に触れる機会を作れた。 【次年度の方針】 ・外国語活動や外国語での言語活動は今後も継続していく。 ・英語での挨拶は継続して行っていくとともに、清掃や給食などの授業以外での時間にも、児童がALTとコミュニケーションをとれる機会を作っていく。 ・英語の表示を増やし、児童が英語に触れる機会を増やしていく。
	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学校図書館に宇都宮に関する書籍の常設コーナーを設置したり、読み聞かせなどで宇都宮関連の本を取りあげたりして、宇都宮に関する関心を高める。 ② 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や地域での学習において、学習内容に関連させながら、児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付くよう指導に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 82.4% ・目標値を下回った。 ・宇都宮に関する常設コーナーを設置したが、調べ学習に十分な量ではなかった。 ・新型コロナウイルス感染症予防の影響で読み聞かせを実施することができなかった。 【次年度の方針】 ・学校図書館の宇都宮コーナーに児童向け書籍を充実させたり、パンフレット等を用いたりして、宇都宮のよさを発信していく。 ・各教科の学習内容と関連させながら、宇都宮市のホームページや資料を活用して宇都宮市への関心を高める。
	A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用してい	① 授業の中で実物投影機、デジタル教科書等 ICT 機器を有効活用し、学習活動の充実を図る。 ② プログラミング学習の実施により、児童がコンピュータや情報機器に親しみ、適切に活用する能力を育成する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.6% ・目標値を若干下回った。 ・児童が、自分でパソコンやタブレット端末を利用する機会が少なかったことが考えられる。 ・調べ学習を中心に、パソコン、南図

目 指 す 児 童 の 姿	る。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	③ 随時蔵書を点検し、学習内容との関連に配慮した図書の整備と拡充のため、図書選定委員会を通して計画的に補充するなど学校図書館の環境整備に努める。	図書館の巡回図書や希望図書、学校の図書資料を活用した。学年のフロアに設置し、授業等で利用しやすい環境を整え、活用することができた。 【次年度の方針】 ・GIGA スクール構想によって導入される各教室の端末を利用する場を多く設定し、授業で効果的に活用していく。 ・学習内容に合わせて、計画的に図書資料の準備を行い、授業で積極的に活用する。
	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 高齢者への感謝や敬う心を育むために、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて高齢者とふれ合う活動を設定する。 ② 高齢者を身近な存在として感じることができるよう運動会や感謝の会、給食へ招待するなど、高齢者と交流する機会の設定を工夫する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.1% ・目標値を上回った。 ・生活科や行事では、高齢者と交流する場を設けることができなかったが、5年生の総合的な学習の時間では、リモートにより高齢者と交流する活動を工夫することができた。 【次年度の方針】 ・継続して取り組んでいくとともに、状況に応じてリモート等の活用や各種交流会を実施して高齢者への感謝や敬う心の育成に努める。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育やエコ活動等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意欲や態度を育成する。 ② 学級活動や各委員会活動を通して、節電・節水や校内緑化の推進を図る。 ③ 全教育活動を通して人権教育を計画的に推進し、共生社会の実現に向け、主体的・協働的に学び、行動する態度を育成する。 ④ 過去の震災などの具体例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.2% ・目標値を下回った。 ・SDGsの目的や内容について、校長講話を通して、児童に周知した。 ・総合的な学習の時間や道徳等の教科において、コスモス栽培やエコ活動等による防災・環境問題や高齢者・障がい者・子どもの人権問題を取り上げ、学習した。 ・各学級担任が、電気や水道の使い方を指導してきたが、児童が意識して取り組むまでには至らなかった。 【次年度の方針】 ・全教育活動を通してSDGsと結び付けて学習や活動を展開していく。 ・係活動を活用し、節電・節水等を心掛けるよう引き続き指導していく。 ・各種委員会でポスターを作成するなど、「持続可能な社会」についての児童の活動を推進していく。
	B1 勤労生産的な活動を計画的に実施し、働く喜びを知る児童の育成に努めている。 【数値指標】	① 花壇や教材園など全校をあげての栽培活動や、縦割り清掃、クリーン活動、勤労タイム等を計画的・継続的に実施する。 ② 米作り体験やコスモスロードの	【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.2% ・目標値を上回った。 ・感染症対策を施しながら、勤労生産的な活動を実施することができた。

	全体アンケートの「自分は、清掃活動や栽培活動に一生懸命取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	整備に児童が主体的に取り組めるよう、計画・実施する。		【次年度の方針】 ・縦割り班清掃やクリーン活動等を児童が主体的に取り組めるように計画的・継続的に実施する。 ・栽培活動や米作りに児童が主体的に取り組めるよう、計画・実施する。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画や個別の指導計画を作成・活用し、学校全体で指導にあたる。 ② 特別な支援を必要とする児童を含むすべての児童にとって分かりやすい授業の展開や、誰にでもわかるユニバーサルデザインを意識した指導をし、適切な支援に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100% ・目標値を上回った。 ・個別の支援計画を作成し、個に応じた支援・指導について、共有し合い、適切な支援に努めた。 ・誰にでも分かりやすい授業や学習環境づくり（ユニバーサルデザイン）を意識し、学校全体で取り組んだ。 【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組んでいく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 「いじめをしない、させない、許さない」心を培えるよう、あらゆる時間や場において、人権意識を高める指導の充実を図る。 ② 「いじめ調査」や「教育相談」を定期的に行い、組織的な対応により早期発見、早期対応に心掛ける。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.1% ・目標値を上回った。 ・児童会を中心にいじめゼロ集会を実施し、意識の内在化を図った。 ・学級毎にいじめ予防の標語を考える取組を実施した。 ・普段の様子についての共有化や定期的な「いじめアンケート」「教育相談」の実施による実態把握に努め、早期発見、早期対応に取り組んだ。 ・事案によって、いじめ等対策委員会を開き、組織的に対応した。 【次年度の方針】 ・取組内容を継続し、いじめ根絶に尽力する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスを作ってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 「挨拶」「励まし」「称賛」等の言葉掛けを行ったり、主体的に活動する場面や、活躍できる場面を授業中に設定したりして、自分の居場所となるような温かい雰囲気学の級経営に努める。 ② 児童の自己肯定感を高められるよう、「思ちゃんコーナー」など児童相互に認め合う場を数多く設ける。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.1% ・目標値を上回った。 ・「挨拶」「励まし」「称賛」等の言葉掛けを継続的に行いながら、居がいの感のある温かい学級経営に努めた。 【次年度の方針】 ・継続して取り組み、温かい雰囲気学の級経営に努める。 ・学びポケットの活用を推進し、安心感・信頼感に支えられた良好な人間関係づくりに努める。

目 指 す	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 外国人児童が円滑に編入学し、充実した学校生活が送れるよう、全職員が連携し、受け入れ体制づくりに努める。 ② 個々の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100% ・目標値を上回った。 ・本年度の該当児童はいなかった。 【次年度の方針】 ・充実した学校生活が送れるよう、全職員が連携し、受け入れ体制づくりに努める。
学 校 の 姿	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学校評価、行事アンケート等を検証し、児童の思いを生かした学校行事、児童会活動、学年活動等を設定し実施する。 ② 児童一人一人のよさを伸ばす指導に努め、特色ある学校づくりや特別活動、道徳教育を推進し、望ましい人間関係の醸成に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.2% ・感染症拡大防止のため、三密を避ける、ソーシャルディスタンスをとるなどの対策を行ったり例年通りの学校行事が行えなかったりした影響もあり、目標値を下回ったと考える。 【次年度の方針】 ・今年度の反省を生かして、感染症対策を踏まえながら、学校行事や児童会活動・学年活動などの改善に取り組むとともに、特色ある学校づくり等を積極的に推進していく。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧な指導がされている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 授業のねらいを明確にし、少人数指導やT.T、課題別学習など各学年の実態や各単元に応じた指導法の工夫を図り、個に応じた多様な学習を展開する。 ② ICTを積極的に活用したり教材や提示資料を工夫したりして学習意欲を高める工夫をする。 ③ 朝の学習の時間などを活用して、基礎・基本の定着を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.7% ・目標値を上回った。 ・授業の中で「ねらい」「まとめ」「ふりかえり」の一連の流れが定着してきている。 ・デジタル教科書や実物投影機、タブレットなどのICT機器の活用が定着してきているので、児童の意欲や理解が高まってきている。 ・朝の学習時の漢字や計算、読書を中心とした学習により、基礎的基本的な言語の力が身に付いてきている。 【次年度の方針】 ・朝の学習の時間を利用して、さらなる基礎的基本的な言語の力の定着化を図る。宮っ子学習シートや漢字・計算オリンピックを活用し、計画的に繰り返し学習していく。 ・引き続き、個に応じた言葉掛けや課題の提示の仕方を工夫する。

目 指 す	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 教員と専門性を有するスタッフがそれぞれの能力や専門性を生かしながら、学校の諸課題や運営等に相互に連携・協力しながら取り組む。 ② 「横央小の児童は全職員で育てる」という意識のもと、打合せ等を活用して全職員が児童理解に努め、担任以外の児童にも積極的にに関わり、児童のよさ等を伝え合い、児童の成長を見守っていく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 97.0% ・感染症対策のための新しい取組を行い、協力する場面が多かったため、目標値を上回ったと考える。 ・かがやきルーム担当教員、養護教諭、図書館司書、栄養士、スクールカウンセラーなどと連携をとることができた。 ・担任と連携して四つ星シールを活用することで、児童の頑張りを全職員で見守ることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も、全職員で横央小の児童を育てるという意識のもと、教職員の連携を密にして対応に当たるようにする。
学 校 の 姿	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率性を考慮した計画や実施に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や各種行事等の反省をもとにした実施方法の改善を行う。 ③ 地域コーディネーターや学校支援ボランティア等の協力を得て、各教育活動の効果的で効率的な業務の改善に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 63.6% ・目標値を下回った。 ・勤務時間を意識しているものの、感染症対策のため新たにやるべき業務も増え、軽減には至っていない。 【次年度の方針】 ・放課後の時間を捻出する工夫をし、学級事務や校務分掌など、個々の業務に充てる時間の確保に努める。 ・引き続き、学習支援ボランティア等に協力をいただき、教育活動の充実を図る。 ・リフレッシュウィークの設定を継続し、意識改革を進めたい。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 地域学校園で取り組んでいる「あいさつ運動」など、<u>地域学校園の取組を懇談会や各種便り、ホームページ等を通して、積極的に保護者や地域の方々に知らせる。</u> ② <u>小中学校での相互の授業参観や研究授業の公開、中学校からの乗り入れ授業等の積極的な交流を実施する。</u> ③ <u>各分科会や学校一人配置職員の分科会を通して、地域学校園内の相互支援体制を充実する。</u>	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 85.0% ・感染症拡大防止のため活動が縮小され、目標値を下回ったと考える。 ・学校園内で互いの研究授業の公開・参観を積極的に行うことができた。 ・学校事務・養護教諭・栄養士間で積極的な情報交換を行ったり随時部会を開催したりして相互支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ・乗り入れ授業は、アンケート後に実施するので、その内容も含めて小中一貫教育の取組について、懇談会や各種便りを利用して、分かりやすく具体的に発信していく。 ・地域学校園内の「あいさつ強化週間・月間」を活用し、あいさつ運動を継続的に実施し、児童の豊かな心

目 指 す 学 校 の 姿	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 街の先生や読書、安全ボランティア、学習支援ボランティア等の地域教育力を積極的に生かした体験型学習の充実に努める。 ② <u>横川地域学校園の地域人材等について、交流連携分科会において、情報の共有化を図り、活用に努める。</u>	の育成を図っていく。 【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.7% ・感染症対策により活動が縮小され、目標値を下回ったと考える。 【次年度の方針】 ・感染症対策を施しながら読み聞かせボランティアや地域人材を活用した教育活動の充実に努める。 ・安全ボランティアや学習支援ボランティア等に、引き続き協力をしていただき、教育活動の充実に努める。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実に努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 保護者による学習支援ボランティアや街の先生や読書、安全ボランティア等の地域教育力、企業の出前講座等を積極的に生かした体験型学習の充実に努める。 ② <u>横川地域学校園の地域人材等について、交流連携分科会において、情報の共有化を図り、活用に努める。</u> ③ 本校の取組や各学年の行事等について、各種便りやホームページ等で保護者に発信する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 89.0% ・目標値を下回ったが、前年度よりは上回った。 ・回数は少なかったが、感染症対策を施しながら実践してきた成果と考える。 【次年度の方針】 ・各学年において、地域ボランティアや企業の出前講座を活用する際、継続性や系統性のある教育活動ができるよう調整を図っていく。 ・本校の取組を発信するとともに、保護者のより一層の協力を呼びかける。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 縦割り班による清掃指導の充実に努め、清潔で心休まる学習環境を整えたり、毎日荷物の整理や片づけたりして教室の美化に努める。 ② 毎月の安全点検や定期的な教材・備品等の整理整頓により、危険箇所や不備について迅速な改善に努める。 ③ 避難訓練や引渡し訓練等を通して、不測の事態への備えを万全にする。 ④ 新型コロナウイルス等の感染症拡大や熱中症予防対策など、時期や状況に応じた保健指導や管理に努める。	【達成状況】 保護者の肯定回答率 90.6% ・目標値を上回り、昨年度より4ポイント増えた。 ・日々の清掃指導を十分行い、隅々まで綺麗にすることができた。また、教室備品等の整理整頓を行うことができた。 ・感染症等の予防について、養護教諭が中心となり、全職員で取り組んだ。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続して行い、清潔で心休まる学習環境を整えるよう努める。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用してい	① 授業の中で実物投影機、デジタル教科書等 ICT 機器を有効活用し、学習活動の充実に努める。【A10再掲】 ② プログラミング学習の実施により、児童がコンピュータや情報機器に親しみ、適切に活用	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 76.2% ・目標値を下回った。 ・授業で教師は実物投影機やデジタル教科書等を積極的に活用したが、保護者に発信する機会が少なかった。

目 指 す 学 校 の 姿	る。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	する能力を育成する。【A10 再 掲】 ③ 随時蔵書を点検し、学習内容と の関連に配慮した図書の整備と 拡充のため、図書選定委員会を 通して計画的に補充するなど学 校図書館の環境整備に努める。 【A10 再掲】	【次年度の方針】 ・ ICT 機器を活用した授業の様子を HP や学年便りを活用することで、 本格実施したプログラミング教育 を保護者に発信していく。 ・ GIGA スクール構想による、一人一 台の端末を授業で積極的に活用し ていく。
	B2 道徳科の授業を 要に教育活動全体を通 して道徳教育の充実を 図り、家庭や地域と連 携しながら、心の教育 を推進する。 【数値指標】 全体アンケートの「道 徳の授業で考えること や話し合うことは楽し く、自分の考えを深め たり広げたりすること ができる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 道徳の授業では、発問や課題提 示を工夫したり、体験的な活動 を取り入れたりして、児童が自 己の生き方について主体的に考 えられるような道徳授業の充実 を図る。 ② 家庭や地域との連携を図りなが ら、豊かな体験活動を充実し、 <u>横川地域学校園で推進する心の 教育の充実を図る。</u> ③ 道徳の授業公開を継続する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.1% ・ 目標値を下回った。 ・ 児童が主体的に考えることができ よう、発問や課題提示の工夫を図 ってきた。 ・ 学校行事などの体験的な活動と関連 付けながら、長期的に道徳の価値に ついて考えられるようにすること で、様々な場面で道徳的価値につ いて意識できるようになってきた。 ・ 授業参観の中止により、保護者への 授業公開は全クラス実施できな かった。 【次年度の方針】 ・ 道徳ファイルを活用し、継続的に児 童の心の育成を図る。 ・ 引き続き、考えを伝え合う活動を取 り入れ、自分の考えを述べたり、友 達の考えを聞いたりすることを通 して、考えを深めたり広げたりで きるような授業の展開に努めていく。 ・ 学校行事などの体験的な活動とも関 連付けながら、長期的に道徳の価値 について考えられるようにする。
	B3 読書活動によ り、豊かな心情の育成 を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「自 分は進んでいろいろな 本を読み、学習にも役 立てている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① ボランティアによる読み聞かせ やチャレンジブックを活用した 読書活動の充実を図り、豊かな 心の醸成を図る。 ② 学習において、知識を広げたり 深めたりするために必要な図書 を利用できるように図書館の整 備充実に努め、活動の充実を図 る。 ③ 市の図書館と連携し、調べ学習 などで積極的に活用する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.6% ・ 目標値を下回った。 ・ 感染症対策のため、ボランティアに よる読み聞かせが実施できなかった。 ・ 感染症予防として、休み時間等に自 由な貸出はできず、決められた時間 に学級を2分し来館するなど対策 を施しながら実施した。 ・ 学校の課題図書(チャレンジブック) は、担任の指導や、放送による啓発 により、約半分の児童が達成した。 ・ 1 か月あたりの読書量は、市の平均 を上回った。 ・ 希望図書や南図書館からの巡回図書

			を、学年のフロアに設置することにより、進んで図書を利用することができた。 【次年度の方針】 ・幅広い知識が身に付けられるように、様々な分野の本の拡充に努める。 ・チャレンジブックに各学級で意欲的に取り組めるよう読書指導を行う。 ・教師や学校図書館司書による読み聞かせ、ブックトークにより読書の楽しさを味わわせ、読書に関心をもたせるようにする。
--	--	--	--

6 「総合的な評価」

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度は、市の評価の平均も本校の評価も昨年度よりも低い項目が見られ、感染症の影響と考えられる。 そうした中でも、本校は、保護者の肯定的回答の割合が全ての項目で昨年度より高く、特に「進んで学習に取り組んでいる」96.7%（昨年より2.4ポイント高い）、「児童生徒は健康や安全に気を付けて生活している」94.3%（昨年より7.3ポイント高い）、「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」90.7%（6.7ポイント高い）であった。「認め励まし合う学級経営を行っている」88.7%では目標値の90%を達してはいないが、昨年度よりも高い値であった。これは、感染症対策をとりつつも、児童が充実した学校生活を送れるように取り組んできた成果と学校教育への期待の表れと受け止めている。 「思いやりの心の育成」に関しては、児童の肯定的回答割合では「児童生徒は誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している」90.1%と昨年度を上回った。「先生方はいじめが許されないことを熱心に指導してくれる」97.1%と高く、昨年度同様に目標値を大きく上回った。日常の指導とともに、感染症による差別やいじめをしないというメッセージを伝え続けてきた。 「学力向上」に関しては、「授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」の肯定的回答の割合は、児童92.3%、保護者96.7%であり、「分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導」については、児童96.7%、保護者90.7%と目標値に達しており、市の割合と比べても高い。 「パソコンや図書等の活用」「宇都宮のよさを知っている」については目標値には達成していない。今年度より、プログラミング教育（プログラミング的思考を含む）や宇都宮学が開始され、それぞれの教科で加わった学習を履修することはできたが、感染症対策のため、ボランティアによる読み聞かせや図書館やパソコン室の活用が十分に実施できなかったためと考える。今後は、一人一台のタブレット端末の活用等を推進していきたい。 「リーダー性の育成」に関しては、「先生方は一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスを作ってくれている」児童96.1%と高い値である。教職員の「特別な支援を必要とする児童等の実態に応じて適切な支援をしている」の高い肯定的割合と合わせると、児童の多様性を尊重し、互いを認め合う学級経営を目指してきており、多くの児童は安心して生活していることが伺える。一方で、「学校に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」や「夢や目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる」の児童の肯定的な割合は、昨年度を若干下回った。これは、例年通りの学校行事等が行えなかった影響があるかもしれない。今後も、感染症対策を講じながらもできる児童会活動や体験的活動を続け、その中でも児童が主体となって考え、活躍できる場を設定し、児童が満足できる取組を行っていきたい。 「地域と共にある学校づくり」に関しては、「家庭・地域・企業等との連携・協力」の教職員、地域、児童の肯定的回答の割合が、市と同様に、昨年度を下回った。また、「小中一貫・地域学校園の取組」についても、市と同様に、児童の割合が下がった。これも、感染症対策との関連と考える。<u>小中一貫・地域学校園での取組については、共通のあいさつ運動は実施せず、校内の児童会の活動とした。6年生の乗り入れ授業や中学校訪問はアンケート後の実施であるため、その感染症対策を含めた取組については児童に説明していく必要がある。ただし、保護者の値は、市よりも高く、昨年度よりも上がっている。これは、各種便りやホームページ等で発信していたためと考えられる。</u>このような状況下でも、学習支援ボランティアや地域コーディネーターの

方々にご協力をいただくことができ、学習環境の整備を図ることができた。

教職員の働き方に関しては、「協力して業務に取り組む」97.0%と教職員の評価は昨年度を上回った。感染症対策のための新しい取組を行う際、それぞれの立場や専門性を生かした提案や実施に全職員がより協力して取り組んだ。「勤務時間を意識して業務の効率化に取り組む」については63.6%と、昨年度同様、市の平均よりもかなり低い。感染症対策のために新たに行う業務も増え、軽減には至っていない。以前から、宇都宮市では市内一斉にICT活用による校務データの整理・共有化や留守番電話の導入などを実施してきた。本校では、「よりよい働き方推進会議」を発足し、意識改革を進めるとともに、勤務時間の管理、定時退勤日の設定、目的を明確にした行事の見直し等を実施してきたが、抜本的な改革には至っていない。放課後の時間確保などさらなる業務の効率化や改善が必要である。

7 学校関係者評価

○第2回地域協議会における意見と学校マネジメント評価自由記述及び第3回地域協議会（紙面開催）での意見は、以下の通りである。

- ・授業参観を通して、全体的に落ち着いて学習している様子がすばらしかった。掲示物が丁寧に展示されており、すばらしい環境が整っている。
- ・言語感覚は言うまでもなく、生活の中での環境の良し悪しは児童の教育活動に大いに影響してくると思う。
- ・歴史ある学校で、教育面・学校運営等に問題はない。本校の立地条件が市街地的地域と自然環境のハーモニーがマッチングしている地域。今後とも、児童の豊かな心の醸成を高められるよう、地域とマッチングした教育活動を継続して行ってほしい。
- ・オープンスペースを活用した感染症予防対策が各教室とも良くできていた。マスク・手洗い・三密を避けての学校生活は先生方のご苦労に感謝する。
- ・コロナ禍の学校生活であり、項目中の小中一貫教育や学校支援ボランティアの評価に減少が見られるが致し方ない。
- ・登下校時の挨拶については、マスク着用で声が小さく聞こえないことが多い。
- ・宮っこステーション、1年生の昔遊び、3年生の縄なりが中止となり、将棋クラブの活動も予定の半分程度の参加しかできなくて残念だった。
- ・今年度、先生方、PTA執行部の方は、常に子供たちの安全を第一に考えての毎日で、学習面・精神面でのサポートはご苦労されたと思う。ボランティアや地域の方々など、外部からの援助も利用しながら、まずは先生方が負担を軽減しながら、児童の笑顔を引き出せる学校となれば、少しずつでも（達成）目標はクリアできると感じた。
- ・コロナウイルスの影響で学校行事等が制限された中でも、進んで学習に取り組んだり、思いやりの心を持ち続けたりしている児童が多いことに安心した。学校でも家庭でも制限がある生活の中で、児童が目標や夢を見つけることができれば、自ら調べ学び取り組む力はある。そのサポートを引き続き学校と地域と家庭とで連携して行えたらいいと思う。
- ・児童の評価が低いものがあつた。やはり、コロナの影響も大きいと考えられるが、少しでも肯定的回答ができなかった子供たちを意識して、来年度に繋げて行ってほしい。
- ・今年度は、昔遊びや読み聞かせなど、児童と直接関わるボランティア活動ができなかったが、感染症拡大予防を意識しながらも活動を増やしていけたらと思う。先生以外の大人からの言葉にゆっくり耳を傾ける体験は今の子供たちに本当に必要だと思う。
- ・読み聞かせや育成会の行事も全て中止になり、私自身は子供たちとの触れ合いが無く寂しい一年だった。子供たちが安心して参加できるような地域の行事を考えるべきだと思っている。
- ・前例のない学校運営の中で、「いじめ」「不登校」への指導及び対応が高い達成状況で安心した。「教職員の協力」が高い達成率ですばらしい。反面、「教職員の勤務体制」達成状況が低いことから、改めて働き方改革についての課題が見られる。改革が推し進められないのは残念である。
- ・学力向上のために、早く一人一台のタブレット端末の活用ができることを期待している。
- ・登下校時の車の学校への乗り入れが多く、ルールを守っていない保護者もいて、安全面で心配である。。マナーが守られず、事故が起こってからでは悲しいので、乗り入れない方向で安全確保していくことができるといい。
- ・安全面で地域の高齢者の活用をもっと考えたかどうか。
- ・横川中学校交差点に早く交通指導員さんを確保してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

本校では、学校教育目標の具現化に向けて、「思いやり・健康・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」を目指す学校像として、努力点の重点化を図りながら、教育活動の充実を図ってきた。また、これらの実現のためには、保護者・地域と連携・協働した施策・事業の展開が不可欠なため、「魅力ある学校づくり協議会」を核として、共に学ぶ楽しい学校づくりを目指してきた。今年度は、コロナ禍のなか、従来通りの活動や行事が難しい状況下でも、実施方法を変更したり工夫したりしながら、学校教育活動を行ってきた。

今回の評価結果と学校内自己評価を受けて、次年度の方策について検討していく。

- ・学習指導については、児童が夢や目標を持ち、主体的に考え取り組む学習になるよう引き続き指導していく。
- ・地域と児童の関わりについては、今年度は、総合的な学習の時間などにおける「ひょうたん村」の高齢者や施設の方とのリモート交流活動や米作り、コスモス栽培、クラブ活動、安全ボランティア活動などでご協力をいただくことで、自分の周りの人に感謝する心を育むことができた。地域の方々との触れ合いや地域の行事への参加は、地域への愛着心や自己の存在感などを高め、児童の心の育成に大切な関わりであることから、今後も安全対策をとりつつ、可能な限り実施していく。
- ・いじめや不登校等対策については、今年度の取組を継続し、アンケート結果や教育相談等で得た情報を蓄積し、教職員で共有し合い、常に未然防止や早期発見、早期対応に努める。また、「不登校を生まない学級経営」を日頃から意識し、人間関係や自己肯定感を高めるための指導を充実させる。
- ・挨拶については、学校・家庭・地域が連携を図り、同一歩調で指導していく。あいさつ運動などは、さらに効果的な取り組みになるように工夫していく。
- ・4月からタブレット端末が配付されることから、有効な活用に取り組む。
- ・学校の働き方改革にあたっては、保護者や地域の理解が不可欠であり、理解や協力を求める取組も重要である。本校では、学習教材づくりなど気軽に学習支援ボランティアの協力が得られる環境にあり、大変ありがたい。教職員が、心身共に健康で、未来に生きる子供たちのために新しい教育課程へ向けた準備や実践、さらなる授業力の向上を目指して、自己研鑽に十分な時間を費やすことのできる働き方を見出すことが喫緊の課題である。